

東

北の名古利で山形県を代表する観光地として知られる「山寺」の正式名称は、「天台宗宝珠山立石寺」。天台宗の総本山である比叡山円暦寺は、「近江国」（滋賀県大津市）、近江商人ゆかりの地にあります。立石寺は、最上義光公が山形城主の時代に寺領1,420石もの寄進を受けていました。紅花交易で富を得た近江商人もまた、手厚い寄進を行い、立石寺を支えてきました。

慈

覚大師が清和天皇の勅命を受けて立石寺を建立した際には、380町歩もの寺領を有していたといわれます。これは坪に換算するとおよそ114万坪という広さで、山寺に集まった僧侶や人々の数は相当数に上ったと推測できます。それだけの人々の生活を支える手段のひとつに紅花栽培があったとしても不思議ではないので

すが、残念ながら慈覚大師が紅花を伝えたという資料が残されているわけではありません。ただ、戦国から江戸時代まで時が進むと、紅花と山寺の関係が推察できる資料を確認することができます。そのなかには、かの松尾芭蕉が山寺へ向かう道中に天童市下荻野戸で詠んだ「眉掃（まゆはき）を 俵（おもかげ）にして 紅粉（べに）の花」の句に紅花が登場したり、隣接する高瀬地区が朝霧の立つ栽培適地であるということなど、当時の面影が偲ばれるものが山寺周辺には点在しているのです。



女性の口元や目元にさした紅。「赤」は魔を祓う神聖な色とされ、神事や化粧に用いられてきました。

近

近江商人にとって慈覚大師が開いた山寺は、強く惹きつけられる存在でした。また、最上義光公は商才のある近江商人を山形へ誘致すること

によって上方との取引を盛んにしようと動き、山形城の城下町（現在の十日町～七日町界限）に土地を分けて店舗を構えさせ、地元の商人とともに紅花交易を盛り立てました。そ



山形市の「紅の蔵」は、紅花商人として活躍した長谷川家の屋敷や蔵を改修した施設。

上方文化と江戸文化が共存する、山形ならではの蔵座敷。

うして富を築き上げた紅花商人たちは現在も商いの形を変えながら山形の経済をけん引しています。街の景観も然り、とくに山形市内に今でも残る蔵屋敷は、紅花交易で伝わった上方の座敷蔵文化と羽州街道により伝わった江戸の店蔵文化を兼ね備えており、独特の風情を醸し出しています。また、紅花交易は山形の秋の風物詩である芋煮会や、山形の食卓



現在、山形の家庭料理として親しまれているおみづけは、近江商人が考案したといわれる。

に欠かせない「おみづけ（近江漬け）」など、食文化にも影響を与えました。

こ

うした「山寺と紅花」にまつわる物語が、2018年5月、「日本遺産」に認定されました。日本遺産（Japan

近江商人が山形にもたらした、富と気風。



江戸末期に山形（出羽国村山郡）の絵師・青山永耕によって描かれた山形県指定有形文化財「紅花屏風」。当時の生産風景を視覚的に伝える貴重な資料。

天台宗の総本山・比叡山延暦寺は、近江商人ゆかりの“近江国”にあります。



摘んだ花卉に水を含ませて2～3日置き、団子状に丸め煎餅状に潰し、天日干しをしたのがこの紅餅。

初夏に黄色い花を咲かせる、キク科の植物。

紅花の起源地は中近東というのが有力な説。草丈は60～120cmほどで、トゲのある葉を互い違いにつけ、ポンポンのような花を上向きに咲かせる。咲き始めは黄色でだいに赤くなる。



紅花は、染色用・薬用・食用にも使われる。

茎や葉は食用や茶、飼料として、生花は観賞用やドライフラワーなどにも利用される。干した花びらは染料、茶、酒、漢方薬などに、また種子はベニバナ油、肥料や飼料などに使われる。



約4,500年前のエジプトではミイラの着衣にも用いられた。

紅花に含まれる水溶性の黄色色素には防虫・防腐効果が認められている。エジプトで発掘されたミイラには紅花染めの布が巻かれており、虫からミイラを守るためと推測されている。



Heritage) とは、地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、山形県では平成28年度の「出羽三山『生まれかわりの旅』」、平成29年度の酒田市の「北前船寄港地」、鶴岡市の「サムライゆかりのシルク」に続き4件目の認定となります。ストーリーを構成するのは、山形市、寒河江市、天童市、尾花沢市、山辺町、中山町、河北町、大石田町、白鷹町の4市5町。関係市町や団体に

よる協議会を設立し、地域観光の発展に向けた取組みを進めています。

認

定を受けたストーリーや文化財群を、国内はもとより海外にも発信していくことで、地域の活性化を図ることが日本遺産の目的のひとつです。日本文化の豊かさが描かれた「山寺と紅花」の物語は、山形の風土の新たな魅力に触れる旅へとつながることでしょう。そして、当地に住む

人たちにとっても見慣れた景色の色彩が増し、ふるさとへの誇りと愛着が育まれる貴重な機会となるはずですよ。



開花の時期は7月上旬から下旬。抽出できる色素の99%は黄色で1%が赤い色素。